

■星は亂れ飛ぶ (十卷)

原作者 帝キネ音屋映畫
脚色及監督者 沖野岩三郎氏
伊藤大輔氏
河上勇喜氏

主要役割

ヴァイオリニスト 富井初雄 松本 泰 輔氏
オペラ女優 小金井みどり 澤 蘭 子嬢
同 母 照世 園 高 枝 子嬢
同 父 社會主義者 明 高 堂 國 典 氏
舞踊家 石井 漢 小 島 洋 々 氏
舞踊教師 瀨 田 銀 潮 氏
ビヤニスト 黒 田 瀨 川 銀 潮 氏
工學士の息子 水 谷 新 輔 瀨 口 末 之 助 氏

解説——主婦の友に連載されて居た沖野氏の小説を「血を血で洗ふ」に續いて伊藤大輔氏が脚色監督したもの。
略筋——社會主義者小金井明は米大陸に放浪の旅を續けて居たが、彼の娘みどりは母との貧しい生活の中から歌劇學校に幾年かの修業を積みオペラ女優として帝都の劇壇に名を知られるやうに成つた。彼女は當時丸の内劇場で天才ヴァイオリニストとして前途を囑望されて居た富井初雄と相愛の仲と成つたが、米國から歸朝した明は之を許さなかつた。みどりは富井の許に逃れて楽しい同棲の日が續き、子供も出来たが彼女は強いて父に反抗は出来なかつた。遂に子供を富井の實家に預け悲しい別れを嵐山で告げた。一二年の月日が流れた。みどりは大阪の公會堂で開かれた舞踊大會に招かれる。富井も樂師として招かれ母と愛兒を伴つて出席して居た。みどりは舞臺に「星は亂れ飛ぶ」を踊つた。それは彼女の過去現在の運命そのまゝの舞踊であつた。樂師の中に富井の姿を見、愛兒の泣き聲が耳に入つた時、彼女の心は亂れ狂つた。苦惱に堪はず舞臺に倒れた彼女の傍に人々が馳け付け、時、既に彼女は永遠の眠りに就いて居た。

帝キネ音屋 伊藤大輔氏作品 星は亂れ飛ぶ

